



一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

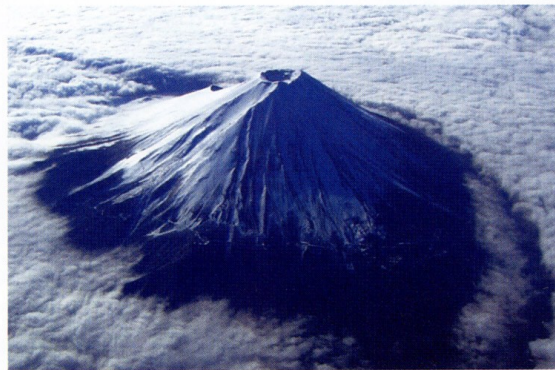
## 若狭国一の宮巡り

「山スカ」という言葉をご存知だろうか。最近、耳にするこの言葉は、アウトドア・ファッションの女子専用のスカートの意味である。その種類も幾つかあるようで、インターネットなどを利用した若い女性に人気があるという。また、今年の富士山への登山者は過去最高を記録しているようで、この山スカ姿のお嬢さんが目立ち、おみやげ店も繁盛していると聞く。背景には中国人や韓国人の旅行者が増えたことがあり、若い人たちの静かなスピリチュアルブームがあると思われる。

江戸時代には、お伊勢参り、熊野参り、そして富士参りが盛んであったらしい。平成の今日パワースポットブームにのって、沢山の人達が神社・仏閣、霊峰巡りをして、自己の運氣を高めることは大変結構である。つい最近では、「空海の道」として高野山と吉野山を結ぶ新しい巡礼道が提案され、奈良県や地元自治体が協力するという。ますます聖地巡礼の気運が高まりつつある。

一の宮巡拝会は既に十数年前から全国にある一の宮神社の巡拝「百万人巡拝運動」を提唱し現代に至っている。雑誌やテレビに取り上げられるパワースポットの多くは、これらの一の宮神社に在り、度々マスコミで紹介される。さて、今年秋に開催する「一の宮巡拝会近畿ブロック交流会」は若狭国一の宮「若狭彦神社」と「若狭姫神社」を参拝することになった。

若狭国は日本海に面し古来から対馬海流に乗って、朝鮮半島との往来が盛んであった。北陸のパワースポットの一つとして、遠敷川おにゅうの清流が巨巖にあたって淵をなしている「鵜の瀬」という所がある。この巖の上に御祭神の若狭彦神と若狭姫神が降臨したと由緒は伝えている。この鵜の瀬の淵は、奈良東大寺二月堂の若狭井の水源と伝えられ、毎年3月2日、二月堂のお水取りの水を、鵜の瀬から流し送る山八神事が行われる。



世界文化遺産を目指す秀峰『富士山』

御祭神の若狭彦神は彦火火出見尊で、有名な神話「海幸彦、山幸彦」の弟神の山幸彦である。兄神の紛失した釣り針を海神の宮に探し求め、その海神大綿津見命の姫が若狭姫神社の御祭神、豊玉姫命で二人はハッピーに結ばれた。若狭彦神社の随神門前にあ

る神木である夫婦杉の巨木がそのハッピーな姿を現している。30メートルを越える二本の幹が根本でしっかりと一つになっている。また、若狭姫神社には千年杉が繁り、カゴノキは県の、そしてオガタマノキは市の天然記念物にそれぞれ指定され、悠久の神さびた雰囲気は、現代の若者のかっこうのパワースポットと言える。

(一の宮巡拝会近畿ブロック交流会は平成22年10月23日(土)に日帰りバスツアーを行います。会報6頁をご覧ください)

一の宮巡拝会代表世話人 関口行弘

入会を希望する方は各事務局へご連絡ください。

### 一の宮巡拝会本部事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内  
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159  
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

### 一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 (株) アドワーク内  
 電話：03-5823-3901 ファックス：03-3865-2135  
 E-mail：shio0369@crocus.ocn.ne.jp





江戸時代の神宮聖地の俯瞰、左下が宇治橋



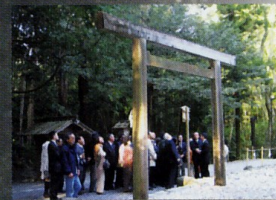
宇治橋前で記念写真 H22年4月25日



風雨が順調で五穀が豊かに稔るようにと風の神が2柱祀られている



神宮会館支配人、井田様から早朝参拝の素晴らしさを聞く会員



風日折宮の説明を井田様から真剣に聴く



聖地の境、五十鈴川の説明



宇治橋から見た清浄感漂う、早朝の五十鈴川



バックイメージ/神宮宇治橋・鳥居・陽光を戴く神宮の杜



架け替え中の風日折宮橋



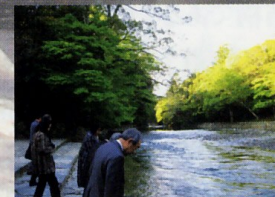
寒さを感じる参道を歩む



架け替えられたばかりの火除橋



行在所・齋館の説明を聞く



早朝の五十鈴川は手水も冷たい



古来から社殿のない滝祭神、五十鈴川水源の瀧の神を鎮める。

春陽麗和の好季節…新緑が目にしみる時期を得て、『聖地』伊勢にて本年の一の宮巡拝会全国交流会を、46名の参加者により恙無く実施する事が出来ました。皆様の崇高・真摯なるご協力ありがとうございました。

**第一日目：**JR伊勢市駅に正午に集合。豊受大神宮(外宮)へ向う。天照大御神の大御饌の守護神、すべての産業の守り神である。北御門から神域へ。正宮御垣内参拝では関口代表と村田梯章氏がお白石上え、会員は列拝を行った。正宮参拝に続き豊受大御神の荒魂を祀る多賀宮を参拝、続いて土宮と風宮を参拝して北参道から神域外バスへと移動。初日の神宮参拝が終了した。次に志摩国一の宮で神宮の別宮・伊雑宮へと向う、美しい新緑の山を越えて神宮の遥宮で天照坐皇大御神御魂をお祀りする伊雑宮では、各人自由参拝でゆっくりと参拝した。もう一つの志摩国一の宮・伊射波神社では小池龍作氏の案内で湾からの一の鳥居、古代榎の元で身禊大祓奏上と修抜の後、遥拝。宿泊先は創業270年の老舗旅籠、二見・朝日館で懇親会が行われた。

**第二日目：**今回のサプライズとなる内宮早朝参拝のため午前5時30分朝日館を出発宇治橋へ向う、神宮会館支配人の井田様のご案内で通常体験出来ない神宮の清浄感漂う清々しい早朝の神域を懇切丁寧にご説明いただきました。新たな神宮を知る事が出来たと思います。早朝参拝の様子は写真を参照下さい。一旦、宿に戻り朝食をとり、再度バスにて内宮へと向い先に正宮御垣内参拝を行った。神楽殿では御神楽を奉納、昨年(2010年)の天皇陛下御即位20年の奉祝とご結婚50周年の慶祝をお祈りし又ご皇室の益々の弥栄と国家安寧を祈念致しました。その後、各自神宮会館へ戻り12時から直会の饗膳を戴き昼食をとった。食後は自由時間でおかけ横丁を各自散策後、午後3時伊勢市駅前で解散した。



## 一の宮一〇八社を水墨画で描く (本多 英五郎)

私は全国一の宮の水墨画を描き始めて、約十年になりますが、そのスタートは定年退職後、水墨画を習い始めた時、テーマを決めて描くのも一つの方法だと教えられ、先生から四国八十八箇所の寺院を描き上げた画家はいたが、全国



若狭国・若狭姫神社 御神木 千年杉  
(本多英五郎作 水墨画)

一の宮、一〇八社の画は描き上げた人は未だ誰もいないとの話を聞き、当時六十九歳の全くの素人の私が厚かましくも全国一の宮をテーマとして、挑戦を始めた次第です。

何しろ、全国一の宮とは北海道から沖縄、壱岐、対馬まで全国各

地に鎮座され、参拝だけでも大変な距離の旅の連続でした。そして、全国一の宮、一〇八社を順次巡る間に、何処の神社も同じ様な風景で、画の題材としてのその神社の特徴を見つけ出すのに苦労したのが、第一の壁でした。幸い、珍しい風物があれば、宮司様に了解を頂き、スケッチと写真撮影を進めました。二度三度とその神社に参拝している間に、拝殿内部まで撮影させて戴く事も可能となりました。私の水墨画の中で、鹿児島の新田神社の本殿前の龍柱などは一般参拝者の目に触れない珍しいもので、水墨画を描く者だからこそ拝見の機会が与えられた喜びを感じている次第です。

そして、全国一の宮を巡る間、一の宮は日本の神社信仰の原点で、歴史を物語る一の宮の社殿を、拙い画と写真でその御姿の一端を記録に残すのも私に与えられた使命ではないかと考え、七十八歳の現在も続けている次第です。現在、未だ道半ばですが、現在描き上げた30号の画は半数を超えています。その画も、ご希望があれば、各一の宮神社に装丁して奉納したいとも考えています。

## 一の宮巡拝 (運命学研究者 南 尋公)

一の宮巡拝会にご縁を戴きましたのは、もう八年も前になりますでしょうか。日本の伝統文化や歴史的遺産を訪ねる旅を企画し、その日も生徒さん達を引率して「古事記」に伝承される但馬国一の宮・出石神社と粟鹿神社に参拝した時のことです。宮司様にご挨拶をと社務所に伺った時にふと目に止まったのが一の宮巡拝の小冊子でした。思わず手に取って開いた瞬間「長年、私が求めていたものに出会えた」という感動と共にその瞬間、天と地がわたしの身体を通して一本の柱で繋がった強い衝撃を受けたあの時の不思議な感覚が今でも新鮮に甦ります。

巡拝会に入会以来、会員の皆様や友人、知人と共に巡拝をさせて戴いておりますが、皆さん共通して「神様にご利益を求める」といった気持を既に超越していらっしゃる方々と時間を共にすることはとても心地良く、出会いを楽しみにしております。

著名な物理学の先生が、宇宙(天御中主神)は、一円玉の大きさから始まり、私たち人類はもとより森羅万象全てのもので生まれたと言っておられました。仏教の教えに「輪廻の思想」があります。私たちが、神様とも仰ぐ空気という素粒子の豊かな地球(須佐之男命)に輪廻を繰り返し、



神氣漂う神社の社は小宇宙へ繋ぐ

太陽(天照大神)と豊穰の恵みを与えて下さる大地(国之常立神)の上に、自然の営みを謙虚に神として仰げる国の民として生を得られたことに感謝をし、巡拝を重ねて参りたいと思います。

## 日本伝統建築研究所 川仁(かわに)

建築家 菊園武彦

— 神社建築・日本伝統家屋のご相談は —

〒541-0053 大阪市中央区本町4-7-12 大急ビル7階  
TEL:06-6261-2262 FAX:06-6261-2336  
E-mail:kawani@kawani.com URL:http://www.kawani.com



## SSC アートギャラリー

贈答用絵画・インテリアに・・・

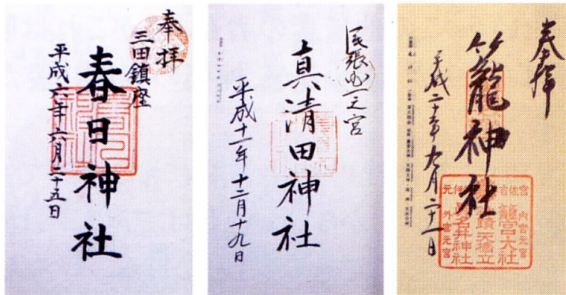
有名作家～新人作家の絵画・版画・陶芸・彫刻

〒666-0111 兵庫県川西市大和東2-13-10  
TEL:072-791-5158 FAX:072-791-5159  
E-mail:sekiguchi@sekinomiya.com



## 御朱印帳へかける思い (岸本鐵夫)

今、私の手元には3冊の御朱印帳が有ります。  
 一冊目は平成6年6月25日付地元の氏神・産土神三田春日神社の御朱印が見開きに押して有ります。  
 二冊目は平成11年12月19日付の尾張国一の宮真清田神社の御朱印が第一番に押した記録が有ります。  
 そして三冊目は四国和紙を使用した巡拝会の御朱印帳に平成20年9月21日付の丹後国一の宮籠神社が



三冊の御朱印帳に押された御朱印

墨痕鮮やかに記帳されております。既に三巡目と思われるかもしれませんが、そうではありません。巡拝を重ねるうちに増えていったもので、それぞれに節々の思いがつまった私の大切な足跡なのです。

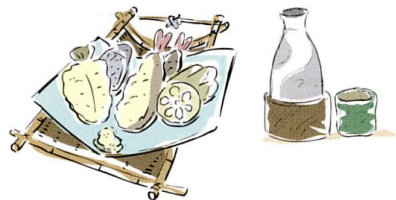
私の巡拝のきっかけは両親を亡くした後の菩提寺の宗旨五十六本山巡りからでした。それから数年をかけて、北は東北仙台、南は北九州と参拝し御朱印を頂くうちに、大きな鎮守の森に見え隠れする鳥居と御社の壮大さに関心を抱くようになりました。そんな時に川村二郎著日本廻国記一宮巡歴に出会い、全国の一の宮巡拝を發起いたしました。

私は巡拝手段を原則、鉄道、遠隔地には飛行機を利用しますが、最寄り駅からは可能な限り御社まで歩きます。これは橘三喜を見習い、徒歩に重きを置き、巡拝視線を同時代にすることにより、一の宮の歴史過程を実感できると考えているからです。そしてこの道中の徒歩こそが私が一番神恩を感じるひと時でもあります。こうして巡拝を重ねるうちに一つの転機が訪れました。それは尾張国一の宮真清田神社の宮司飯田清春先生との出会いでした。その旅は夜行の鈍行で垂井駅から徒歩にて美濃国一の宮南宮大社を参拝後、

東海道本線に引き返し、尾張国一の宮真清田神社から熱田神宮を巡る計画でした。ちょうど、真清田神社に参拝し、社頭に立ち止まり、御祭神由来等拝見していたところ飯田宮司にお声掛け頂きました。その後、社務所応接間で一宮巡拝の意義、心得、各宮の歴史的な位置づけ、風土、神事諸行事など親しくお話頂きました。その際、先生にご指導いただき、手に入れたのが2冊目の御朱印帳です。後日、何度か飯田宮司のご高名を拝聴するたびに、あの一時が蘇ります。また、熱田神宮参拝後の直会に名古屋名物うなぎ櫃まぶしを勧めていただきました。先生いわく直会は大神と共にその土地、土地の海山供え物を頂き感謝する宴とのこと。参拝後、早速、一人、土地の美酒、櫃まぶしを堪能し帰路につきました。以来、先生の言葉とその美味しさが忘れられず、各地一の宮近くの美酒、名物を予め調べるのが巡拝の計画に加わりました。

また一の宮巡拝会に参加するようになったことも大きな励みとなりました。会でしか体験できない集団正式参拝、伊勢神宮の御垣内参拝、早朝参拝などの貴重な巡拝はもちろん、宮司の神事にまつわる丁寧なご説明、会員同士の交流はその時間を共有した仲間でないといわえない心地よさがあります。三冊目は会報誌を通じてご推薦いただいたものです。

こうして縁あって私の手元にある三冊の御朱印帳。ページをめくる度に旅の景色が鮮明に蘇ります。そして大切な思い出とともに、美しい海山の大神達、瑞穂の国に相応しく美田に囲まれた大神たちから大都会の雑踏の中に鎮座する大神まで何処からか見守って頂ける気がします。これからも各地の一の宮に参拝し、身体と心の穢れを落とし、清々しい気持を受け取り、神恩に感謝する巡拝の旅を続けたいと思います。



株式会社 アドワーク

クリエイティブ

企画・デザイン・デジタルデータから各種印刷・特殊加工

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12 第一大津ビル  
 TEL: 03-5823-3900 FAX: 03-3865-2135  
 E-mail: mac-data@adwork-net.co.jp (代表アドレス)



泉大津ロイヤルテニスクラブ

Tennis Makes us Happy!

会員☆スクール生 随時募集中!!

〒595-0024 大阪府泉大津市池浦町1-8-33  
 TEL: 0725-22-2324 FAX: 0725-22-4040  
 E-mail: takaderahachirobe@nike.eonet.ne.jp



小説「全國一の宮」調元祖

# 橘 三喜 (第四十一回)

郡 順史・作 関口 之洋・画

「人には言葉があります。その言葉に誠意をこめて話し合えば、心が通ぜぬ筈はございません。至急、全島に触れを廻し、棟梁親方衆に集ってもらい、当方の意を話し、彼等の意を聴いてみましょう」

三喜は自分の思いを臆することなく述べた。

滝川家老はすぐに三喜の意見に「よかろう。ただちにかかるとよい」と賛意をしめしたが、村松寺社奉行は、三喜と同様、彼等と直接折衝する立場だけにより慎重であった。

「彼等の人選、場所、日時など、案外手間取るのではないか。日数ひかずがかかってはご造営が遅れる憂いも出よう。その辺を充分に考えおかねばならぬ、のう」

三喜が答えた。

「仰せの通りでございます。よって村松様のご指導とご協力は不可欠のものと相成りましょう。まずはお役所から与力二名、同心衆を五、六名派遣たまわりたく存じます。私、その方々と手分けいたし、至急彼等のあいだを廻り、集合させます。場所は島中央の住吉神社がよかろうと存じますが、いかがでございますでしょう」

三喜のこういう場合の交渉術というのか、話し方は、しかと自己の主張を持ち結論も抱いているが強くは主張せず、決は相手にゆだねるようにする。それゆえ相手も心地よく吟味し、結局は三喜と同様の決になるが不快さは遺さない。三喜の話術のたくみさ、というものであろう。

「相わかった。ではこれより役所に参り、与力二名、同心五名を人選し、明日にも島へおぬしあすと同道いたすよう手配いたそう。よろしうございますな」

と、家老の許しを求めた。

「よかろう。橘、ご苦勞であるが、拔かりなくな」  
滝川は最後に三喜に念をかけた。

これにて話し合いは終わった。あとは壱岐へ与力たちと渡るだけである。

翌日早朝、波の静かなうちと、船を出し、役人と役所の小物十名と共に、三喜は島へ渡った。

そして与力同心たちと手分けして、島の処所に分住している棟梁たちへの呼びかけに駆け廻る。

棟梁の下には並大工、左官職、屋根職(これを三職という。この他に鳶の者もいるがこれは職とは呼ばなかった)がいるが、棟梁の権限に委ゆだねたのである。

この他に各神社の宮司神職にもこの際であるから、というわけで声をかけ集ってもらうことにした。むろん各町村の長にも声をかけまわった。これだけの作業に五日間かかった。

ただ来なさい、集まりなさいと言うだけではなく、集合の理由を話し説得するのであるから、時間がかかる。ゆえに五日間で廻り切ったというのは、如何に小さな島とはいえむしろ驚異的な迅さ、というべきかもしれない。

必ず行きます、と確約したのは廻った人間五十六人中四十九人、あとの七人は「おれは反対」と怒っている者。しかしその七人のうちの五人は「ではとに角出るだけは出る。だが反対だよ」と言いながらも説得に応じたのである。大成功と言うべきであろう。

その説得行で三喜が嬉しく思ったのは、あの時、「俺たちは死ぬ氣で来たんだ!」と激昂し身を震わせて叫んだ湯岳の木之助が、三喜の姿を見ると急いで近寄って来て、笑顔で挨拶し、更に道案内をしてくれたことであつた。

そして島へ渡って来ての十五日目、住吉神社に於て大集会が開かれたのであつた。

(つづく)





第五回「一の宮巡拝会」  
近畿ブロック交流会&巡拝会



若狭彦神社本殿

平成二十二年度は若狭國一の宮を正式参拝します。その他に奈良東大寺へのお水送りで有名な鶴の瀬、鯖街道を廻ります。

申し込み

参加希望者は十月十日までに左記FAX又は電話にてお申し込み下さい。  
FAX 〇七二五―二一四〇四〇  
電話 〇八〇―三〇八―四八八二(高寺)  
※詳しい案内書及び参加申込書・参加費振込用紙をお送りいたします。

目的地 若狭國一の宮・若狭姫神社、若狭彦神社(正式参拝)  
日時 平成二十二年十月二十三日(土)  
参加費 一万円(交通費・玉串料・昼食・飲み物含む)  
集合 JR新大阪駅南口観光バス駐車場  
午前七時四十五分 八時出発  
コース 新大阪駅→千里IC→舞鶴若狭自動車道→小浜西IC→若狭姫・若狭彦神社→鶴の瀬(昼食)→鯖街道資料館→湖西道路→京都駅(下車可)→新大阪駅 解散

祭神 若狭彦神社(上社)  
彦火火出見尊  
(ひこほほでみのみこと)

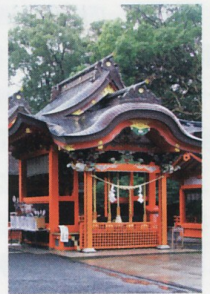
若狭姫神社(下社)  
豊玉姬命  
(とよたまひめのみこと)

由緒

若狭彦神社は、若狭彦神社(上社)と若狭姫神社(下社)の二社からなる。共に遠敷川の左岸、上流に上社が、下流に下社が鎮座する。両社の社殿配置は同一で、共に巨樹・古木の鬱蒼と茂る中に本殿が静かに鎮座し、神さびた風情を漂わせている。社伝によると、上社の創建は霊元元年(七二五)、下社は養老五年(七二二)であり、下社は上社より分祀されたとも伝える。近隣では遠敷明神と呼ばれて親しまれ、また朝廷や武家からの崇敬も篤かった。明治四年に両社は共に国幣中社に列格したが、のちに若狭彦神社へ包括された。

祭神が降臨したという鶴の瀬は、奈良県の東大寺二月堂の若狭井に通じているとされ、上流一五〇mの対岸に創祀の社と伝える白石神社がある。二月堂の右裏手には遠敷明神を祀る遠敷神社が鎮座している。

古事記の神々を訪ねる旅



薩摩国枚聞神社

目的地 九州方面一の宮  
日程 平成二十二年十月二十九日(金)～十一月二日(日)

宿泊 入吉温泉

政府登録国際観光旅館 あゆの里  
※初日はバス車中泊です。

参加費 四万七千二百五十円(全てにかかる費用)  
集合地 京都駅八条口バスターミナル、新大阪駅

出雲大社神迎え神事、  
八百万の神々に出会う旅



出雲大注連縄

目的地 出雲大社と神々のふるさと山陰地方  
日程 平成二十二年十月十五日(月)～十一月十六日(火)

宿泊 玉造温泉

政府登録国際観光旅館 ホテル玉泉  
参加費 三万九千三百円(全てにかかる費用)  
集合地 京都駅八条口バスターミナル、新大阪駅

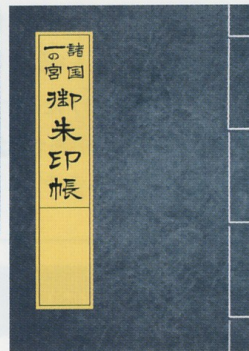
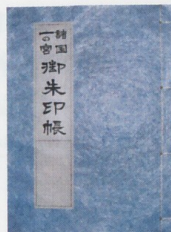
※参加申し込みは九月三十日まで参加者多数が予測されますので、お早めに申し込みください。

申し込み詳細問い合わせ  
TEL 〇七七―五二五―三〇九〇  
FAX 〇七七―五二五―三〇九六  
滋賀県大津市 南尋公(みなみひろこ)

ご購入希望者は東京事務局まで

全てB5版・軽量で携帯に便利、墨書きも吸い込みが良く速乾性にも優れ好評です。

四国和紙・楮笹ヶ峰  
一の宮・神社名・祭神名入り  
定価七千円(送料別)



斐伊川和紙(奥出雲三刀屋・手漉き)  
一の宮・神社名・祭神名入り  
定価一万五千元(送料別)  
残部僅少

御朱印帳 和紙シリーズ



一の宮神社のみでの頒布で一般の書店では購入出来ません。諸國一の宮神社の社頭でお求めください。又は東京事務局へお問合せください。  
頒価一、〇〇〇円(送料別)

「全国一の宮会」編  
公式ガイドブック 全国一の宮めぐり

一の宮巡拝会本部事務局 創房閑宮(有)内  
〒六六八―〇二一 兵庫県川西市大和東二一三三十一  
電話 〇七二―七九一―五二五八  
FAX 〇七二―七九一―五二五九  
一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内  
〒二一〇―〇五五 東京都台東区三筋一十二―十二  
電話 〇三―五八三―三二九九  
FAX 〇三―三三八―五二二三五  
●入会金及び会費について  
一般維持会員 年会費 三、〇〇〇円  
賛助会員 一口三、〇〇〇円(何口でも可)  
寄付金 お志し ※常時受け賜ります。薄謝謹呈  
●会費等お振込み先  
郵便振替(大阪)〇〇九九―一五―八二五五